

茶道 タブレットコンテンツ

最初のパフォーマンス：茶の湯（お茶を準備する芸術）

茶の湯はお茶を準備し提供する日本の伝統的な芸術です。しばしば「お茶の儀式」と訳されます。

抹茶（粉末の緑茶）の準備と提供は、精神的な自覚、自己修養、および美的洗練を養います。

お茶を出す前に、空間と道具を注意深く準備します。そしてお茶の提供は、可能な限り最高のお茶を作るために設計された特定の順序に従います。

お茶、お菓子、装飾品、そして茶道具は、季節に合わせるため、そしてお客様の楽しみを増すために厳選されています。

最初にお菓子が提供され、主催者はお茶の準備を開始します。調和、敬意、清らかさ、静けさの原則が、お茶を淹れる過程の中で表現されています。

「一期一会」（文字通りに言えば「それぞれの出会いは一生に一度」）という慣用句は茶会に深い意味を与えるもう 1 つの基本的な概念を反映しています。

「茶の道」（茶道または茶湯）は、茶の湯の原則、スタイル、および美学に基づく規律です。茶道家の千利休（1522 年～1591 年）によって完成されました。

侘び（洗練された簡素さ）と禅の精神的な規律をお茶の準備と組み合わせることで、現在世界中で実践されている自己洗練への道が生まれました。

準備が完了すると、主催者は抹茶の粉と熱湯を椀に入れ、茶筌と呼ばれる竹の泡だて器で巧みに混ぜ合わせます。

茶碗は提供される時、その「正面」がお客様の方を向くように回されます。